

地域の経済動向（令和4年10～12月期） 《道南（渡島・檜山）地域》

1 経済動向に係る企業等の声（10～12月期）

【建設業】

- ・短期間で資材価格が上昇するので、見積りや契約が難しい。（住宅建築業）
- ・重機の燃料やタイヤ、オイル類など、様々な価格が上昇しており、経営の負担となっている。（採石事業者）

【製造業】

- ・値上げしても、贈答品やふるさと納税の返礼品などの需要は堅調。（水産加工業）
- ・梱包資材の価格が1.7倍ほど上がり、1～2割程度価格に上乘せした。（水産加工業）
- ・どさんこプラザでテスト販売を行ったところ、商品の認知度が上昇。（水産加工業）
- ・毎月のように原材料等が値上がりするので、価格転嫁のタイミングが難しい。（水産食品製造業）
- ・同時期の比較としては、売上・利益ともに8割程度まで減少。コロナで催事イベントが減少していることや包装資材の高騰が要因。（製造業）
- ・従来からの催事出店中心から商品のブランド化を目指して商品製造・卸売に事業形態を変えていることもあり、売上は一時的に減少傾向にあるが、利益率は改善される見通し。（製造業）

【卸売・小売業】

- ・輸出用中古タイヤの販売は、円安により利益が上がった。一方で、円安が継続することで、海外の契約先から値下げを要求される恐れがある。（中古タイヤ輸出業）
- ・仕入れ価格が上がっているが、客離れが心配で価格転嫁できない。（精肉店）
- ・仕入れ価格の上昇が予想される中、光熱費等の価格転嫁ができない。（自動車小売業）

【運輸業】

- ・全国旅行支援の影響は、まだ見えてはいないが、好影響を期待。（観光バス）

【サービス業】

- ・コロナ禍前は、外国人観光客が約8割を占めていたが、現在は国内観光客が殆どであり、その8割程度が道内観光客である。（宿泊業）
- ・例年11月以降は観光客が減少。はやくインバウンドが回復してほしい。（観光施設）
- ・グランピングは、悪天候により道外客の予約キャンセルが多かったが、道内客の利用は多かった。（観光）
- ・昨年はコロナ禍前に比して50%減まで落ち込んだが、今年はほぼコロナ禍前の水準に回復。観光客も多少いるが、ほぼ、工事関係者が数ヶ月単位で滞在していることが影響。ただ、電気代の値上げ、最賃改定による人件費の上昇で経費増。（宿泊業）
- ・イベントの開催で、かなり売上に影響がある。今年は昨年よりも良かったが、既に仕入れが終わった後に急遽中止となったイベントもあり、損失も発生。（飲食業）

【関係機関・団体】

- ・道南地方の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、引き続き厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられている。最終需要面をみると、公共投資は、幾分減少している。設備投資は、緩やかに持ち直している。住宅投資は、低水準で推移している。個人消費は、緩やかな持ち直しの動きがみられている。観光は、厳しい状況にあるが、全体としては緩やかに持ち直している。生産は、持ち直しの動きが弱まっている。雇用環境は、弱い中にあっても、持ち直しの動きがみられている。（日銀函館支店/道南金融経済概況10月3日公表分）
- ・道南地方の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、引き続き厳しい状況にあるものの、持ち直している。最終需要面をみると、公共投資は、幾分減少している。設備投資は、緩やかに持ち直している。住宅投資は、減少している。個人消費は、緩やかな持ち直しの動きがみられている。観光は、厳しい状況にあるが、全体としては持ち直している。生産は、持ち直しの動きが弱まっている。雇用環境は、持ち直しの動きがみられている。（日銀函館支店/道南金融経済概況11月8日公表分）
- ・燃料・原材料高騰の影響により、利益が縮小されていることから、タイミングを見計らった価格転嫁等の対応が必要。（商工会）

- ・現在は8月の大雨災害の応急処置的な工事、風力発電の附帯工事が多いようだ。災害復旧工事は、今後本格的に発注となるが、件数が多く、こなせるかという不安がある。(建設協会)
- ・建設資材が入ってこなく、工期に影響を与えることもある。(建設協会)
- ・道南地方の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、引き続き厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられている。最終需要面をみると、公共投資は、幾分減少している。設備投資は、緩やかに持ち直している。住宅投資は、低水準で推移している。個人消費は、緩やかな持ち直しの動きがみられている。観光は、厳しい状況にあるが、全体としては緩やかに持ち直している。生産は、持ち直しの動きが弱まっている。雇用環境は、弱い中であっても、持ち直しの動きがみられている。
(日銀函館支店/道南金融経済概況 12月14日公表分)
- ・当行の取引先は建設業がメインのため、コロナの影響もないところが多い。災害復旧工事他、公共工事の発注が順調。ただ、原油・原材料高騰の影響は、当然ある。建築関係では資材が入らないという話も聞いている。(金融機関)

2 道内金融機関から見た地域景況感 (10~12) 月期

① 非常に好調 	② 好調 	③ やや好調 	④ 普通 	⑤ やや低調 	⑥ 低調 	⑦ 非常に低調 
---	--	--	--	--	--	---

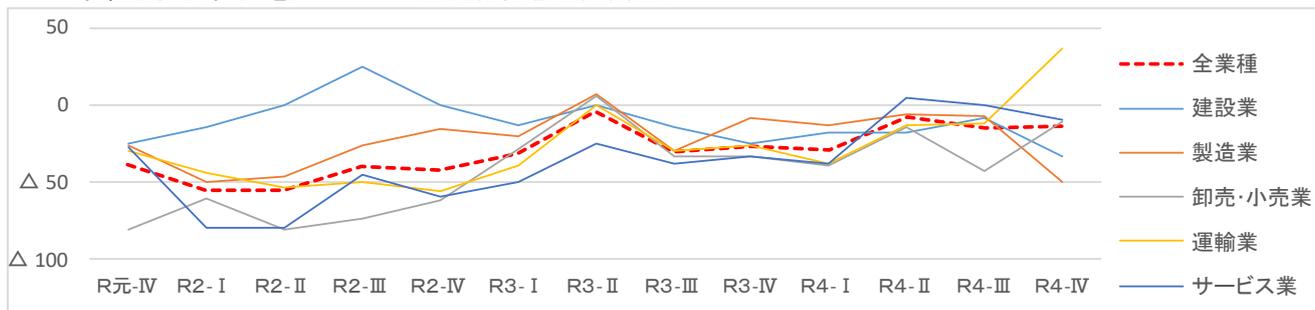
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
渡島信用金庫				生産動向については、一部製造業において、売上が堅調に推移するも、原材料・燃料費等の高騰から、収益性は低調に推移している。新型コロナウイルス関連に係る行動規制が緩和され、サービス業等で改善の兆しが見えつつあるが、先行き不透明な状況は今後も続くものと考えられる。消費動向についても同様に、新型コロナウイルス関連に係る規制緩和により、一部観光関連の業種に持ち直しの期待感もあるが、物価高の影響がその機運を抑制しており、早期に景況が回復となるものではないと考え、「やや低調」と判断した。		各業種において閑散期に入ることから、生産・消費動向共に前回同様「変わらない」と判断した。現状、ロシア・ウクライナ情勢や物価の高騰など、景況感が上昇傾向にあると判断する材料は乏しいものと考えられる。
道南うみ街信用金庫				今期の業況 DI は、概況で△12.8 と前期比 11.0 ポイント良化、売上額の動きで△1.0 と前期比 10.0 ポイントの良化。収益の動きでは、前期比 14.7 ポイント増加を示した。総体的には、前期比で改善されているが、物価高騰の影響によりマイナスからの脱却には至らず、前期の「やや低調」と変わらないと判断した。		次期の景況見通しは、概況で△28.4 と今期より 15.6 ポイントの悪化予想となった。売上額の動きでは△19.2 と今期より 18.2 ポイント、収益の動きでも△25.7 と今期より 22.0 ポイントの減少を予想している。原材料価格は下降予想ではあるが、「全業種で次期予想数値の減少」「慢性的人手不足」「建設業・製造業での受注減少予想」「新型コロナウイルスの影響」等により悪化が見込まれることから「下降傾向」と判断した。

【景況感の推移】

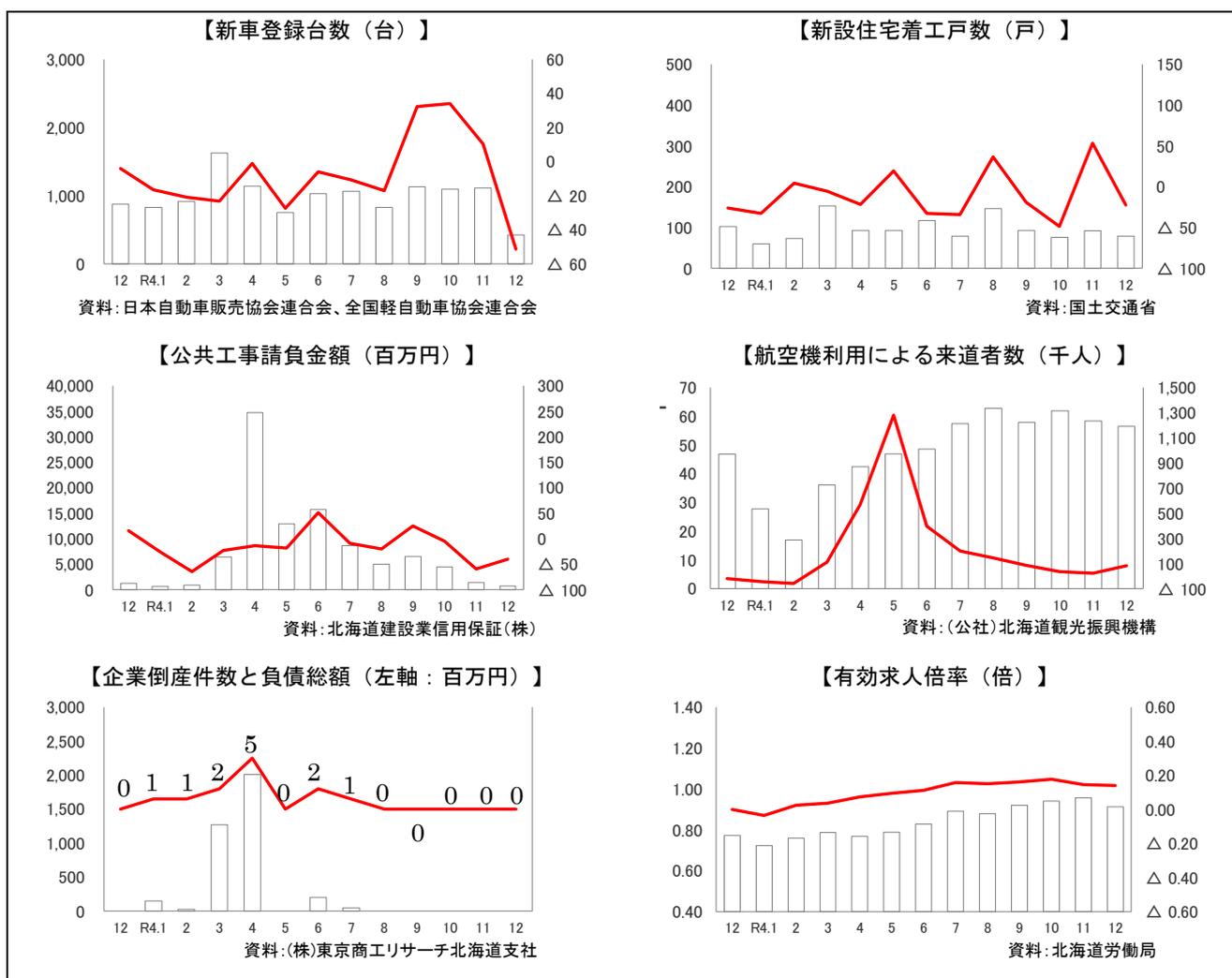
	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV
渡島信用金庫								
道南うみ街信用金庫								

3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	R元-IV	R2- I	R2- II	R2- III	R2- IV	R3- I	R3- II	R3- III	R3- IV	R4- I	R4- II	R4- III	R4- IV
全業種	△ 39	△ 55	△ 56	△ 40	△ 42	△ 32	△ 5	△ 31	△ 27	△ 29	△ 8	△ 15	△ 14
建設業	△ 25	△ 15	0	25	0	△ 13	0	△ 15	△ 25	△ 18	△ 18	△ 9	△ 33
製造業	△ 27	△ 50	△ 47	△ 27	△ 16	△ 20	7	△ 30	△ 9	△ 13	△ 6	△ 8	△ 50
卸売・小売業	△ 81	△ 61	△ 81	△ 74	△ 62	△ 29	6	△ 33	△ 33	△ 40	△ 15	△ 43	△ 11
運輸業	△ 30	△ 44	△ 54	△ 50	△ 56	△ 40	0	△ 30	△ 27	△ 38	△ 13	△ 12	36
サービス業	△ 28	△ 80	△ 80	△ 45	△ 60	△ 50	△ 25	△ 38	△ 33	△ 38	5	0	△ 10

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)